



# 「ご存知ですか？言語聴覚士」



組合立国保成東病院  
リハビリテーション科  
言語聴覚士  
はたけやま まさよ  
畠山 雅代

「言語聴覚士」という職名を、初めて目に耳にされる方は、一体どういう仕事をするのかと不思議に思われるかもしれません。言語と聴覚、言い換えれば言葉と聞こえ、つまりコミュニケーション全般に関するリハビリを行います。成人の方は構音障害（呂律がまわりにくい）や失語症（言葉が出てこない）、その他：聞く・話す・読む・書く、つまり言語機能全体に障害がでて意思疎通が難しくなること）に対するリハビリが多くを占めています。また、言葉を産生する発声発語器官は、食事の飲み込みを使う器官であり、摂食・

嚥下機能とも深く関わっています。そこで、食事を安全に飲み込めるようにするためのリハビリも行なっています。

当院では、平成17年に言語聴覚療法室を開設し、患者・ご家族の皆さんのご理解とご協力、そしてスタッフの支援によって、お陰様で5年目となります。当院においては、医師の診断のもとに言語聴覚療法のリハビリが処方され、入院（一部外来も）の方にリハビリを行なっております。脳梗塞や脳出血などの脳血管障害や、誤嚥性肺炎などを起こされた成人の方に対する言語機能や嚥下機能の訓練

が中心となっております。

言語、聴覚、嚥下いづれの障害も、見た目にはわかりにくく、どちらかという少数でもあることから他者からはなかなか理解されにくい側面があります。家族や仲間と楽しく語らう、美味しいものを共に分かち合うといった、今まで特に意識したことも無かった楽しみが突然奪われることは大変な苦しみだと思います。わたしにできることは本当にささやかなものですが、少しでもお役に立てればと願っております。

**問** 国保成東病院  
地域医療連携室

☎(82)2521



言語聴覚療法室には、患者さんが作ったアート作品が、部屋中に飾られている